

教材教具および題材	学部	授業名・集団名 (主たる教科領域)	執筆者
ミニひまわりの花を描こう	小	グループ学習 高学年アザラシ (図画工作)	土橋知幸 竹下久実 栗本千津子 北山晴啓

<ねらい>

- ・しっかり見たり聞いたりしてどのようにするのかを理解し、何を描くのかというイメージを膨らませて活動に取り組む。

<内容(作成方法・使用方法・工夫点など)>

- ①4月下旬に授業の中で、ミニひまわりの種をまいた。導入として絵本の読み聞かせ(『ひまわり』和歌山静子作、福音館書店)を行い、種から芽が出て、葉が出て、花が咲く、というイメージをみんなで共有した。種まきの工程は、教師が実際に見せながら、植木鉢にスコップで土を入れたり、指で穴を開けて種を入れたり、実体験を通して取り組むように指導を工夫した。また、自分が植えたひまわりの植木鉢がわかるよう、名札(クリアファイルを活用)に自分の名前を書いて、立てるようにした。植木鉢は児童が目につきやすい小学部玄関前に置かせてもらった。
- ②水やりは「あさのかい」の時間や「ひるやすみ」など、クラスの教師の協力を得ながら各自で取り組んだ。
- ③6月下旬頃から花が咲き始めたため、授業の時間に改めて『ひまわり』を読み聞かせし、①に取り組んだ小学部玄関前にてひまわりの花をペンで画用紙に描く取組を行った。描く前には、管状花(茶色い部分)や舌状花(黄色い部分)の色や形など、花の様子にしっかりと注目させた。
- ④描く活動では最初に管状花の部分だけは予めシールで貼っておき、黄色で舌状花の部分を描いたり、緑色で茎や葉を描くようにした。基本、児童からの表現を大事にするように指導し、描きながら「花びらがいっぱいだね」や「茎が伸びてるね」、「いっぱい描いたね」など、児童と教師とがやりとりすることを大事にするようにした。

<良かった点・改善点(児童生徒の反応を含め)>

児童の発達段階が少し前のことを振り返ったり、少し先のことを楽しみにしたりすることができる段階であったので、花の成長にも興味を持てる児童が多く、花が咲くのを楽しみにすることができた。また、事前に花が咲いたら描くことも伝えていたので、この単元を楽しみにしていた児童もいた。自分が種をまいた、育てた、という経験がより描くことへの動機付けを高めることができたと思う。

この時期の児童は、イメージを持って描きつつも、形や色をきちんと捉えて描くことは難しい。また、はじめは「ひまわり」のつもりで描いていても、描いているうちに違うもの(例えば顔になったり、好きな電車になったり…)になることもしばしばである。それ故に、描いた結果よりも描いている過程(描きながら教師や友達とやりとりして、“たくさん描いて楽しかった!”という経験や、描いたことを受け止めてもらった経験…)を大事にしたいと考えてきた。やりとりをする中で、描くことにさらに気持ちを向け、長い時間集中して取り組む児童が多く見られた。

今後も描きたくなるような題材や単元を設定し、描く活動にたっぷり取り組む中で、自分の思いを乗せ、“描くことが楽しい”と思えるような取組を行っていきたい。

<その他(材料、費用、購入先等)>

ミニひまわりの種、植木鉢、土、クリアファイル(ホームセンターで購入)  
画板、画用紙、ペン(黄色、緑色)

ミニひまわりを描こう 種まき（4月下旬）の様子



ミニひまわりを描こう 写生（6月下旬）の様子

